

2015 年度 世界展開力強化事業
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書

国際食料情報学部・国際農業開発学科・2年 西岡 桂

2016年2月10日より2週間ペルーに滞在しました。元々留学に興味を持っていたけれど、金銭面での問題もありなかなか一歩踏み出せない状況でした。そんな矢先に学生ポータルで今回の中南米世界展開力強化事業プログラムを見つけ応募したいと思いました。実習も果樹専攻をしていたこともあって、3か国の中でも多種類の果物が自生するペルーへの留学を希望し、12月の選考会を経てこの機会を手にしました。主な目的はペルーの市場調査です。どんな果物や野菜、肉類が売っているのか、日本との違いを発見すべく現地のマーケットやスーパーマーケットに足を運びました。無論それだけに限らず、初めての中南米でさまざまな経験をし、見聞を広めることも大きな目的です。

現地の市場調査の目的達成のために活動した内容は、首都リマでオーガニックマーケットと一般のマーケットを訪れたこととスーパーマーケットを二軒周りしました。また、アンデス高地に位置するカハマルカでは週に一回開催されるマーケットに行きました。まず、首都リマのオーガニックマーケットについて書きます。このマーケットは **Comunidad Huerto Huaraya Puno** というマーケットで、現地の農大卒業生のセシリアさんとナタリアさんに案内していただきました。生産者が直接販売できるため、生産者と消費者がコミュニケーションをとれるメリットがあります。生産者は何が売れるのか、品質について消費者の実際の声聞くことで生産の向上につながられます。マーケット内を順に廻っていて共通していたことは人の愛想の良さでした。特に試食を出していても、「試してみてもいいですか。」と聞けばたくさん試させてくれました。売られていた品物は本で見たことのあるものもあれば、日本でも売っていられているもの、全く初めてみる実もありました。下記の写真は「パカエ」という果物です。最初見たときはてっきり革製品だと思い込んでいました。中は白いふわふわした実が甘くておいしいです。種が大きく発芽しているものもありました。イメージとしては「そら豆の布団を食べる」といった感じです。別名アイスクリームビーンとも言います（写真1, 2枚目）。ほかにもトゥーナ (tuna) というサボテンの実も食べました。これは赤色と緑色がありますが、味に差はありません。



みずみずしく、少し甘いキュウリのような感じでした。Platano Morado というスペイン語で「紫色バナナ」もありましたが、皮は買った時点ではオレンジと赤の間くらいで紫ではなかったです。もう少し熟成させれば色が変わるかもしれません。Platano Morado の中でも何種類かありますが、私が頂いたのは太く大きな実でした。日本で通常見るサイズの 1.5 倍の大きさです。味は程よく甘く、ねっとりとした感じでボリュームがありました。念願のチリモヤは甘くて食べやすかったです。今回のオーガニックマーケットで様々なフルーツを試しましたが、一番おいしかったのは Granadilla (グラナディーヤ) という黄色いパッションフルーツの見た目をした果物です。種を噛もうとしたら、噛まずに飲み込むものだと言われました。爽やかな酸味が少しと甘味が多く、絶妙な甘酸っぱさでずば抜けたおいしさでした (写真 3 枚目)。

オーガニックマーケットのあとは地元のマーケットに行きました。室内に魚、肉、野菜果物、お菓子などが売ってあり、ハエや自由犬がいっぱいて衛生環境は良くなかったです。特に肉や魚はショーケースに入れることなく常温で置いてあるので臭いも強かったです。前の市場とは違って地元の人々が大勢道に座って作業をしており、屋台のごはんがいくつか並んでいて生活感が出ていました。ひとつ気になったのは近隣の店で似たような商品売っているの、一部の店に売上が偏ったりしないのかという疑問でした。セシリアさんは各々のお店は固定客によって支えられているという考えでしたが、日本であればまず同じお店が 4, 5 軒並ぶことはないでしょう。

スーパーマーケットの野菜果物売り場では、ジャガイモのコーナーや紫トウモロコシ、果物は熱帯果実が主に占めていました。チリモヤ、グラナディーヤやトゥーナもおいてあり、ペルーの人々にもなじみ深い果物だということがわかりました。一方日本ではよく見かけるブドウやリンゴはあまり見かけませんでした。

最後に、カハマルカのマーケットについてです。こちらは週に一度、カハマルカ中から商人たちがロバや送迎トラックを利用して足を運びます。大量の荷物を年老いたおじいさんやおばあさんも担いでいてびっくりしました。特に Camote(よく見かけるイモの種)は重そうでした。高地から人々が集まってくるため、リマではあまり見られなかった高帽子に三つ編み、カーディガン、青いスカートを着た伝統的な恰好をしている女性がほとんどでした。男性も高帽子を被っており、私のイメージしていたペルーはアンデスの人々のことだと気づきました。またこの市場は食べ物だけでなく、洋服や雑貨、おもちゃに農機具など様々な生活用品を売っていて住宅街は人で大賑わいでした。カハマルカなどの高地では Cuy というテンジクネズミの一種のモルモットを家畜として飼っており、小さいながらもタンパク質に優れており、この日は市場でまとめ買いをして家で肥やすという家族に会いました。私たちはペットとして飼うことを言ったら友人に「あんなネズミ飼うなんて気持ち悪い。」と言われてしまいました。カハマルカでは残念ながら食べることはできなかったのですが、帰国日にカハマルカでお世話になったおばあさんがわざわざホテルまで Cuy を料理して持ってきてくれました。脂身の多い鶏肉のようでとてもおいしかったです。ど

の国にも変わった食文化があって、何事も挑戦してみるものだと思います。

今回の目的は市場調査と見聞を広めることでした。見聞を広めるということは幅広い分野を経験することだったので、広く浅くペルーについて知ることができたと思います。ただし、二週間という期間であり、かつこのプログラムは私たち個々の目的に合わせて作られたスケジュールではないのでいろんな分野を浅く知るのが限界だったと思います。市場調査においては見るだけでなく、味も試すことができました。ローカルマーケットや高地の市場など数種類の市場も目にすることができました。この滞在期間中は十分に見て回れたと思います。

今回の留学を経て、今後の取り組みについて考えました。正直に申し上げますと、この留学で確実に成果として得たものは正直ありません。二週間の滞在で幅広く浅く見て廻ったので確実なものがないのは妥当な結果だと思います。ただし、幅広く触れたおかげで将来の方針へのアイディアになるような話や出来事はいくつかありました。それはアイディアとして今はまだ保存しておくつもりです。まずはこの二週間で一番後悔した語学面や勉強面にさらに磨きが必要だと思います。語学面では英語を話せる人とばかり行動を共にしていたので、スペイン語しかしゃべられない人とのコミュニケーションに困りました。少しでも喋れていれば行動範囲も広がっていたはずだし、逃した話も逃さずに済みました。英語に関しても、自分より英語がずっと上の人と出会い自信があった分、甘く見ていたと思い改めて勉強しなおしたいと思いました。勉強面においては、カムカム教会の鈴木さんもおっしゃっていて、私も滞在中に気づきましたが、ペルーの学生は勉強熱心で本当によく勉強すると感じました。自分の学んでいる分野についての知識が深く、何を聞いても詳しく説明してくれました。一方自分は世界共通のはずの学名も覚えておらず、日本のことすら正確に答えることができませんでした。みんな年上だから自分よりよく知っているのは仕方がないことで済ましてはいけないと思いました。日本の学生は日本のことを知らな過ぎると一度ある教授に言われたことがあります。少なくとも日本の大学を代表していくからには日本の農業全般について知識をつけておかなければならなかったと反省しています。そのため、もう一度基礎を学びなおします。また、長期での留学を考えていますが、それは英語圏でもう一度学ぶべきなのではないかと考えていて迷っている段階です。

プログラムに対する要望です。まずはできれば連絡事項を早めに教えてほしいと思いました。今回のスペイン語のレッスンや説明会がぎりぎりですべての予定が入っていたものをずらしたりしたのは私だけではありませんでした。カハマルカでの滞在もぎりぎりに決まり必要な服や費用も万単位であがるとやはり早く知れることに越したことはないと思います。また、スペイン語のレッスンについてですが二回目の資料で単語を一通りやりましたが、日常ではどう考えても使わない〇〇委員会や三角定規など小学校の言葉一覧をやる意味を感じませんでした。必修にするからには役に立つレッスン内容にするべきだと思います。実際に渡航して自分の知識の無さを痛感したことから、選考基準の一つにする、もしくは合格後の勉強会で日本の農業全般の基礎知識をやっておくといいと思います。合格したら一

度安心してしまい、東京農業大学を代表して行く実感が直前まで薄れてしまったからです。また、ペルーの場合 2 週間のスケジュールで観光がメインになっていたと思います。もう少し勉強の分野を広げてもいいかもしれません。実習ではブロッコリーの種の収穫と雑草抜きの二回しかなかったので増やしていいと思います。受け入れ先の農家でもいいですし、今回カムカム教会の鈴木さんが持っている農地での実習をするのもいいと思いました。インターンと言ってもやはり 3 日間ではやれることに限りがあって、リマにいる間の 3 日程度のスケジュールはほかのことに廻せたと思います。向こうとのやり取りもあると思いますが今後の派遣学生のための参考にしてみてください。